

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03866

研究課題名(和文) 転換期にあるシンガポールの文化制度：グローバル創造都市の新たな展開

研究課題名(英文) Transforming Cultural Institution in Singapore: New Development of Global Creative City

研究代表者

川崎 賢一 (Kawasaki, Kenichi)

駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授

研究者番号：20142193

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：グローバルシティの代表であるシンガポールについて、芸術文化制度を観察の起点において、文化社会学・文化経済学などの観点から、学際的に調査・研究することを目的とした。様々な文化施設、様々な図書館、シンガポール国立大学・南洋工科大学などの研究者にインタビューをして、また芸術文化関係の役所・関連施設なども訪れ、基本的な資料を収集した。その結果として、1993年より継続してきた、シンガポールの文化制度の実証的な研究を、グローバル化と関連付けて、その歴史的な展開を、報告書の形で、3章立ててまとめることができた。また、学会発表や様々な場所での発表、様々な論文にまとめることもできた。

研究成果の概要(英文)：Singapore is called as a typical global city. Basing at the standpoint of Art Culture and its institution, from cultural sociology and cultural economics, I could study it with interdisciplinary survey and interview at lots of people in Singapore. For example, in various cultural places like National Library, National Arts Council and Esplanade, etc.. Additionally I could survey at both National University of Singapore and Nanyang Institute to collect lots of materials and interviews. As a result, I could sum up cultural institution of Singapore from 1989 and trace the history of it, and writing down a report of it related with cultural globalization process in Singapore. And also I could some presentations in various places and writing some papers on it.

研究分野：社会学

キーワード：文化政策 文化産業 文化制度 文的グローバル化 シンガポール 創造都市 グローバルシティ 芸術文化

1. 研究開始当初の背景

シンガポールの文化制度は、1990年代に入ってようやく本格的な設立が開始された。その後数度にわたり、具体的な文化制度の計画が実行され、2011年にはかなり整った制度が構築された。具体的には、1989年に長期計画のための海外調査、1991年からの最初の計画のスタート。次に、中期計画として、1995年に建てられた計画で、グローバルシティとしての方向が決められた。さらに、21世紀に入って、3度の中期計画として、画期的なルネッサンスシティプロジェクトが行われ、文化制度がおおむね整うこととなって。そして、2012年からは、新たな長期計画がスタートをして、グローバル都市の文化として、その成果が問われるダイナミクスに入ってきた。

2. 研究の目的

研究の目的は、グローバル化に巧みに対応してきたシンガポール経済と社会が、最後の国家目標でもある、グローバル都市にふさわしい文化制度の設計が、どのように行われてきて、現在どのような方向に向いているのかについて社会学や隣接の文化経済学や文化政策学などの学際的アプローチから、明らかにすることである。具体的には、グローバルシティとしてのシンガポールの位置づけを明らかにして、どのようにグローバル化に対応してきたのかを、1980年代後半から現在に至るまでをトレースする。そのプロセスの中で、文化がどのように位置づけられ、どのように制度として構想されたのかについて、そのプロセスと変容を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

研究の方法については、まず1993年以来、代表者がシンガポール研究にかかわってきた研究成果がベースになっている。今回、改めて、各分野の研究者や実務家にインタビューをして、また、東南アジア研究所・国立シンガポール大学・国立図書館などに出向き、必要な資料を追加して収集し、実証的なやり方で分析を試みようとした。具体的には、インタビューは、芸術文化政策にかかわる、研究者、実務家、行政関係者などを中心として、長年にわたり積み上げてきた研究蓄積の確認と変化を明らかにしようとした。例えば、シンガポール国立大学や南洋工科大学、そして、シンガポール・マネジメント大学の研究者にシンガポールの文化政策についてインタビューをして、過去との変化を中心にその内容を尋ねた。また、芸術文化政策の中心n、ナショナル・アーツ・カウンシルについては、その施設を訪問し、担当者に直接様々な項目を聞くこととなった。また、文化産業系のエスプラネード、あるいは、各所の博物館や美術館関係者などにも聞き取りをした。また、

日本人で活躍している芸術家などにも会い、また、関連の企業(ジェットロシンガポール事務所、日経新聞シンガポール支社、時事通信社シンガポール支社など)にも出向き、担当者の意見を聴取した。それから、資料については、主に、東南アジア研究所、国立図書館(かつて、ナショナルアーツカウンシルに会った資料は、現在すべて、国立図書館の7階に移動している)、そして、大学図書館(国立シンガポール大学ならびに南洋工科大学など)などに出向き、丹念に資料を収集してきた。

4. 研究成果

研究成果については、以下に挙げておいたように、発表や論文・本などを中心に、3年にわたり、海外を含めて様々なところに、研究成果を出すことができた。具体的には、日本では、様々な大学や実務関係者が、現在のシンガポール社会や文化に関心を持っており、そういうところで講演などを行った。また、学会関係では、国際社会学会や学際的な学会において、積極的に発表を行ってきた。

今後、これらをさらに拡大していく予定である。具体的には、2018年の7月にカナダのトロントで開催される、国際社会学会の世界社会学会議において、今回の研究成果を発表する予定であり、また、情報通信学会において、シンガポール関係の論文を集めて、英文の単行本を2019年度をめどに、シュプリンガー社から出版する計画もある。また、従来通り、各種の学会などでも発表をしていく予定である。(例えば、2018年9月には、大正大学でシンガポール文化に関する講演会が予定されている。)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

(1) Kenichi Kawasaki, 2018, After the Death of Lee Kuan Yew, is Freedom of Artistic Expression Possible in Singapore?, GMS Journal No.21, p.p.14-29

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/37967/rgm022-02-kawasaki.pdf>

(2) 川崎賢一、2016、リー・クアンユーの死とシンガポールの文化政策・文化制度の将来、Journal of GMS No.17/18, p.p.159-170, Komazawa University

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/36071/rgm017-19-kawasaki2.pdf>

〔学会発表〕(計5件)

(1) 川崎賢一、2018、「グローバルゼーションと新たな都市経済の再構築：グローバル創造都市とシンガポールの観点から」、2018年2月9日、一般財団法人大阪科学技術センター、大阪都市再生部会第74回フォーラム

(2) 川崎賢一、「ポストリークアンユアの文化制度とグローバル化：シンガポールの検閲制度を題材にして」、(2016年度第1回セミナー型講演会:中京大学社会科学研究所)2016年10月21日,中京大学名古屋キャンパス

(3)Kenichi Kawasaki, 2016.Global Creative Cities, Cultural Institutions, and Urban Transition-- Singapore after the death of Lee Kuan Yew—,Urban Transition Global Summit 2016(Shanghai), 8 September

(4)Kenichi Kawasaki, 2016, After the death of Lee Kuan Yew Freedom of Art Expressions are Possible in Singapore?, 12 July 2016, RC37, 3rd ISA Forum of Sociology, International Sociological Association

(5) 川崎賢一、「ポスト・リー・クアンユアの経済と文化制度」(「リー・クアン・ユアの遺産とポスト・リー時代のシンガポールへの展望」中京大学国際英語学研究所 2015年度シンポジウム(2015年7月10日開催))、2015 (招待発表)

〔図書〕(計3件)

(1) 川崎賢一、2018、文化政策：国家による芸術文化の構築、「シンガポールを知るための65章」(田村恵子(編))、明石書店、91 - 95頁

(2)川崎賢一、2018、「転換期にあるシンガポールの文化制度：グローバル創造都市の新たな展開」、2015年度から17年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書

第1章 グローバル化とシンガポール文化(川崎賢一)

1. グローバル化と文化
2. グローバル化とアメリカ文化
3. 文化の発展のマクロな展開

4. グローバル化とシンガポール文化

付論： 日本文化をどう位置づけるか

関連業績リスト

第2章 流動的なシンガポールの芸術支援体制(川崎賢一・伊志嶺絵里子)

1. 芸術文化政策の変遷と省庁再編
2. NACの組織改編
3. 政府からの補助金と助成事業

第3章 シンガポールの芸術文化政策の変遷(伊志嶺絵里子)

1. はじめに
2. 文化省の設置から1970年代
3. 「文化的な社会を目指して」 - 1980年代
4. 「グローバル都市をめざして」 1990年代
5. 「ルネサンス都市をめざして」 2000年代
6. 「市民と社会のための文化政策」 2010年代
7. おわりに

(3) 川崎・浅野(編)、2016、「<若者>の溶解」、勁草書房

第1章 日常的革新としての消費
第7章 コスモポリタニズムの日常化
あとがき：青年文化の現代的展開と可能性

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川崎 賢一 (Kenichi KAWASAKI)
駒澤大学・グローバル・メディア・スタデ
ィーズ学部・教授
研究者番号：20142193

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

()